

タイにおける小学校英語教育の現状と課題

目次

I. 小学校英語必修化に関する背景・経緯	2
1. 1996年英語教育必修化へ向けて	
2. 1999年国家教育法体制下の抜本的教育改革と英語教育	
II. 教育目標・内容と指導方法	3
1. 「1996年英語教育カリキュラム」における英語教育の実施体制	
(1) 「1996年英語教育カリキュラム」の開始学年、実施時数、実施形態	
(2) 「1996年英語教育カリキュラム」の目標	
(3) 「1996年英語教育カリキュラム」における英語の学習内容	
2. 「2001年基礎教育カリキュラム」における英語教育の実施体制	
(1) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語の開始学年、実施時数、実施形態	
(2) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語の教育目標と水準	
(3) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語学習内容グループの評価方法	
III. 必修化に伴う条件整備	18
1. 教科書と教材	
2. ネイティブスピーカーの確保と配置	
3. 教員養成	
(1) 免許制度への移行	
(2) ラチャパット地域総合大学における教員養成課程	
4. 国レベルの英語教育特別支援事業	
(1) タイ教育省による英語教員担当教員の資質向上施策	
(2) 英語教育担当教員の資質に関する調査結果	
IV. 成果と課題－「英語教育改善のための戦略会議」に見る英語教育の課題－	25
参考文献・関連ホームページ	28
註	

タイにおける小学校英語教育の現状と課題

鈴木 康郎

(筑波大学・人間総合科学研究科助手)

I. 小学校英語必修化に関する背景・経緯

1. 1996年英語教育必修化へ向けて

タイの小学校における英語教育は、1992年より「特別経験活動」における選択科目として始まった。すなわち、タイ教育省は1992年より小学校第5学年から第6学年の児童に対し、1学年当たり200時間の「特別経験活動」を課し、学校が準備状況や地域のニーズに応じて英語学習または基礎的職業科目のどちらかを選択するものとされた。

急速なグローバル化の進展を意識していたタイ政府は、1995年12月、外国語教育奨励策を内閣で承認し、英語を第1外国語として児童生徒に初等教育段階より学ばせる方針が打ち出された⁽¹⁾。

これを受けて、タイ教育省は英語教育カリキュラムの開発に着手し、「初等教育、前期中等教育、および後期中等教育段階における仏暦2539(1996)年英語教育カリキュラム」(以下、「1996年英語教育カリキュラム」)が告示され、小学校においては既存の他教科カリキュラムに追加する形で、小学校第1学年第2学期より必修教科として英語教育が実施されることとなった。

2. 1999年国家教育法体制下の抜本的教育改革と英語教育

1990年代のタイは、グローバリゼーションと呼ばれる急激な社会変化を経験した。政治では、軍部独裁政権が崩壊し、民主化が急速に進んだ。経済では、高度成長が都市化や消費社会化を進め、国民生活水準の向上とともに環境破壊など深刻な社会問題が生じた。そのさなかに、1997年には国家の存亡にかかわる経済危機に遭遇し、新しい国づくりを目指した1997年憲法が施行された。

こうしたグローバリゼーションをはじめとする社会変化に対応して、国民の知識とテクノロジーの水準を高め、国際競争力を持った21世紀を生きぬくタイ人の育成が国家にとって重要な課題となった。まず1997年憲法において、最低12年間の無償で良質な基礎教育を受ける権利が定められた。さらに、抜本的な教育改革案が国民全体を巻き込みながら議論され、1999年にはタイ史上初の教育の基本法として「1999年国家教育法」が制定・施行された。同法において「基礎教育委員会は、基礎教育カリキュラムのコアを定めるものとする。カリキュラムの目的は、タイ人らしさ(クワームペン・タイ)を身につけること、国

家のよき市民（ポンラムアン）となること、生活を営むこと、職業に就くこと、および進学を目ざすことにある。」（第27条）と規定され、これを受けて、2001年11月2日に従来の初等・中等教育段階を12年一貫の基礎教育とする新しいカリキュラム「仏暦2544(2001)年基礎教育カリキュラム」（以下、「2001年基礎教育カリキュラム」）が告示された。

旧カリキュラムの検討を加えてきたタイ教育省学術局は、旧カリキュラムの問題点として、以下の問題を抱えていることを指摘した。すなわち、①中央による拘束性の強いカリキュラムにより、教育機関や地方の実状をふまえたニーズに対応できないこと、②創造的思考能力を軽視したために数学、理科、テクノロジーの教授学習過程が国際競争力を低下させたこと、③学校現場における批判的思考能力育成の失敗、急速な社会・経済変動に対応する能力育成の失敗、および④外国語とりわけ英語学習におけるコミュニケーション能力、情報化社会における情報収集能力育成の失敗、である。「2001年基礎教育カリキュラム」は、これらの問題点を克服するような新しいカリキュラムとして構想されたのである。同カリキュラムでの英語教育は、グローバル化時代における情報収集やコミュニケーションの手段として、その重要性が再認識されることとなった。

Ⅱ. 教育目標・内容と指導方法

1999年国家教育法施行までのタイの教育制度は、初等教育6年、前期中等教育3年、後期中等教育3年となっており、小学校に6年間通学した後、中等学校に3年間ないし6年間通学するというのが一般的であった。学年は5月中旬より新学期が始まる2学期制であり、5月中旬から10月初旬までが第1学期、11月初旬から3月初旬までが第2学期である。以下、「1996年英語教育カリキュラム」および「2001年基礎教育カリキュラム」のそれぞれについて、カリキュラムを中心に英語教育の教育目標・内容および指導方法を見ていくこととしたい。

1. 「1996年英語教育カリキュラム」における英語教育の実施体制

(1) 「1996年英語教育カリキュラム」の開始学年、実施時数、実施形態

「1996年英語教育カリキュラム」は、小中高一貫の12年間カリキュラムとなっており、学校段階に合わせて初級、中級、上級という3段階の言語レベルが設定されている。具体的には、初等教育段階が初級、中等教育段階が中級、後期中等教育段階が上級となる。

初級については、さらに3段階に細分化され、第1学年から第2学年が準備段階、第3学年から第4学年が読み書き段階、第5学年から第6学年が初級基礎段階とされており、第3学年より読み書きを開始する。

実施時数については、準備段階（小1～小2）および読み書き段階（小3～小4）では、週当たり2時間（6コマ）とされているが、初級基礎段階（小5～小6）では、週当たり

5 時間（15コマ）と倍増する。

表 1 「1996年英語教育カリキュラム」における言語レベルの設定

言語レベル	学年段階	教科の構造と学習時間	
1. 初級(Beginner Level) 3段階	小1～小6		
	1. 1 準備段階 (Preparatory Level)	小1～小2	準備英語(Preparatory English) 計3学期 小1の第2学期より開始 週6コマ(1コマ=20分)
	1. 2 読み書き段階 (Literacy Level)	小3～小4	読み書き英語(Literacy English) 計4学期 週6コマ(1コマ=20分)
1. 3 初級基礎段階 (Beginner Fundamental Level)	小5～小6	基礎英語1～4(Beginner Fundamental English) 計4学期 週15コマ(1コマ=20分)	
言語レベル	学年段階	教科の構造と学習時間	
		基礎英語	集中英語
2. 中級(Intermediate Level)	中1～中3	基礎英語5～10 計6学期 週4コマ(1コマ=50分)	集中英語は以下の2グループに分かれる 1. 英語能力向上グループ 学習者の4つの能力(聞く、話す、読む、書く)を向上させる 2. 英語経験促進グループ 実際の経験から英語使用能力を向上させる (例)プロジェクト、実習、英語での発表 学校は、ニーズと関心とコミュニティ・社会の状況に応じて、自由選択科目として英語科目を設ける。
3. 上級(Advanced Level)	中4～中6	基礎英語11～16 計6学期 週4コマ(1コマ=50分)	

(2) 「1996年英語教育カリキュラム」の目標

「1996年英語教育カリキュラム」は、初等教育段階の目標と中等教育段階の目標とに大別され、以下のようにそれぞれ6つの目標が掲げられている(タイ教育省1996, p.9, pp.18-19)。

初等教育段階の目標

1. 正しい文法で、なおかつ文化に適したコミュニケーションのための言語使用能力を持たせる。
2. 進学または必要に応じて、職業に応用できるよう十分な初級英語使用能力・知識を持たせる。

3. 簡単なロールプレイや実際の状況において、コミュニケーションのための言語使用能力を持たせる。
4. 英語の文化に関する知識・理解を持たせる。
5. 英語の本の読書、および他の英語教材を用いて、知識を追加探求する習慣を持たせる。
6. 英語学習に対する良い態度、英語の利益、および英語の価値を認識させる。

中等教育段階の目標

1. 正しい文法で、なおかつ文化に適したコミュニケーションのための言語使用能力を持たせる。
2. 進学または必要に応じて、職業に応用できるよう十分に英語使用能力・知識を持たせる。
3. コミュニケーションおよび知識探求のために、聞く、話す、読む、書くの各技能において、英語能力を持たせる。
4. 英語に対する良い態度、知識探求および職業のための英語の利益、および英語の価値を認識させる。
5. 英語ネイティブスピーカーの人々の文化について、知識および理解を持たせる。
6. 地球社会の多様な文化および地球社会に対するさまざまな知識理解を持たせ、地球社会に対し、タイの文化および考え方を創造的に伝達するために言語使用能力を持たせる。

以上のように、「1996年英語教育カリキュラム」は、初等教育段階の英語学習についてコミュニケーション能力育成を優先し、中等教育段階における本格的な英語学習の基礎段階として位置づけていることが特徴である。またこれまで中等教育段階のみに開設されていた英語を、小学校第1学年より必修教科として開設し、なおかつ初等教育段階と中等教育段階とを合わせ、12年間一貫の英語カリキュラムとして示した点で画期的であるといえよう。

(3) 「1996年英語教育カリキュラム」における英語の学習内容

「1996年英語教育カリキュラム」では、初級レベルの3段階それぞれについて学習目標、内容、および学習教授提供ガイドラインが示されている（タイ教育省1996, pp. 15-17）。

語彙数についてみると、準備段階（小1～小2）で語彙数約120～150語、読み書き段階（小3～小4）で語彙数約240～300語（累計約360～450語）、初級基礎段階（小5～小6）で語彙数約940～1,050語（累計約1300～1,500語）と示されているが、同カリキュラムに具体的な

単語は掲載されていない。

表2 「1996年英語教育カリキュラム」の初等教育各段階における英語学習の構造

準備段階(小1～小2、Preparatory Level)

学習目標	内容	学習教授提供ガイドライン
<p>小1～小2では以下の目標を持つ</p> <p>1. コミュニケーション文脈に適した英語使用能力</p> <p>2. 簡単な指示を聞いて実行できる</p> <p>3. 学習した言語的レベルにおいて簡単なシチュエーションにおいて意味を伝達できるスピーキング能力</p> <p>4. アルファベット、単語、短いメッセージを正しく発音できる</p> <p>5. 英語科目の学習に対する良い態度を持つ</p>	<p>文法の構造：あいさつ、自己紹介、他者紹介、お礼を言う、謝る、相づちを打つ、許可を取る、についての短くて簡単な文章。肯定形、命令形、疑問形、短い返答</p> <p>語彙：このレベルの文法構造に出てきた語彙。学習者の身の回りと身近にあるもの、自分、家族、学校についての語彙。名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、感嘆文。語彙数約120～150語。</p>	<p>目標を達成するために以下の学習教授を提供する。</p> <p>1. リスニング、スピーキングによるコミュニケーションを強調する。</p> <p>2. 学習者を中心とし、学習者は表現する役割を持ち、教員は調整役として準備した計画通りに学習が進むよう助言する。</p> <p>3. 英語に対する良い態度をもたらすために幸福で楽しい学習教授活動を強調する。</p> <p>4. 歌、ゲーム、ロールプレイ、再現、読み語り、ジェスチャー言語、クイズなどによる学習教授活動を行う。</p> <p>5. 学習者が表現する勇気をもたらし、表現するための支援をし、学習者に対する批判を避ける。</p>

読み書き段階(小3～小4、Literacy Level)

学習目標	内容	学習教授提供ガイドライン
<p>小3から小4では、以下の目標を持つ</p> <p>1. 学習したレベルに適した正しく明確な、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングに関するコミュニケーションのための英語使用能力</p> <p>2. 簡単なシチュエーションにおいて、英語でリスニング、スピーキング、および会話ができる。</p> <p>3. ブロック体の読み書きおよび綴りができる。句読点を正しく使用できる。</p> <p>4. 語彙の知識を増やす手段として、辞書を使用できる。</p>	<p>文法の構造：以下のことについての短くて簡単な文章。あいさつ、自己紹介、他者紹介、お礼を言う、謝る、相づちを打つ、許可を取る。</p> <p>語彙：このレベルの文法構造に出てきた語彙。学習者の身の回りと身近にあるもの、自分、家族、学校についての語彙。名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、感嘆文。小1から小2で学んだ語彙に加えて新規語彙数約240～300語。この段階までの総語彙数は約360～450語。</p>	<p>目標を達成するために以下の学習教授を提供する。</p> <p>1. リーディングおよびライティングのためのコミュニケーションを特に強調する。</p> <p>2. 学習者を中心とし、学習者は表現する役割を持ち、教員は調整役として準備した計画通りに学習が進むよう助言する。</p> <p>3. 英語に対する良い態度をもたらすために幸福で楽しい学習教授活動を強調する。</p> <p>4. 歌、ゲーム、ロールプレイ、再現、読み語り、教室での英語使用、ジェスチャー言語、クイズなどによる学習教授活動を行う。</p> <p>5. 学習者が表現する勇気をもたらし、表現するための支援をし、学習</p>

5. 学習に対する良い態度を持つ。		者に対する批判を避ける。
-------------------	--	--------------

初級基礎段階(小5～小6、Beginner Fundamental Level)

学習目標	内容	学習教授提供ガイドライン
<p>小5から小6では、以下の目標を持つ</p> <p>1. 学習したレベルに適した正しく明確な、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングに関するコミュニケーション能力。</p> <p>2. 上の教育段階への学習の基礎となるような英語使用能力。言語の使用法についての知識、理解を持つ。</p> <p>3. 英語で、スピーキング、リスニング、および会話ができる。声を出し、内容が分かるようなリーディングができる。</p> <p>4. ブロック体と筆記体でコミュニケーションのために、文章およびさまざまな表現を英語でライティングできる。正しく綴りができ、句読点が使えらる。</p> <p>5. 印刷物、辞書、およびその他のメディアを含むさまざまな種類のメディアを用いて、追加知識を探求するための手段として英語が使用できる。</p> <p>6. コミュニケーション言語の文脈において、文化についての知識、理解を持つ。</p> <p>7. 英語に対する良い態度を持ち、読む習慣を身につける。</p>	<p>文法の構造：以下のことについての短くて簡単な文章。あいさつ、自己紹介、他者紹介、お礼を言う、謝る、相づちを打つ、許可を取る、依頼、命令。肯定形、疑問形、決められた語彙での返答文。</p> <p>語彙：このレベルの文法構造に出てきた語彙。学習者の身の回りと身近にあるもの、文化、自分、家族、学校、場所、方向、年月日、季節などについての語彙。名詞、代名詞、動詞、助動詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞、感嘆文。これまでに学んだ語彙に加えて新規語彙数約940～1,050語。小3から小4の段階までの総語彙数は約360～450語であり、総語彙数は約1,300～1,500語。</p>	<p>目標を達成するために以下の学習教授を提供する。</p> <p>1. それぞれの活動においてリスニング、スピーキング、リーディングおよびライティングのためのコミュニケーションを強調する。教室では英語を教授言語とする。</p> <p>2. 学習者を中心とし、学習者に表現させ、教員は監督者・学習教授用教材の調整役として準備した計画通りに学習が進むよう助言する。</p> <p>3. 英語に対する良い態度をもたらすために幸福で楽しい学習教授活動を強調する。</p> <p>4. 課題を与えて、活動を実施する。他者との共同作業をする訓練のため、ロールプレイ、ゲーム、歌などを使って、ペアおよびグループ活動において学習者が協力し、相互交流をする。</p> <p>5. 学習者が、言語的活動参加に対して表現する勇気をもたらすよう、奨励し動機付けする。</p>

2. 「2001年基礎教育カリキュラム」における英語教育の実施体制

(1) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語の開始学年、実施時数、実施形態

「2001年基礎教育カリキュラム」は小中高12年間一貫のカリキュラムであり、3年毎に1つのステージとして区分し、第1ステージから第4ステージまでの4ステージで構成されている。なお、初等教育第1学年から中等教育第3学年までの9年間は義務教育、初等

教育第1学年から中等教育第6学年までの12年間が無償の基礎教育と定められた。

図1に示されるように、同カリキュラムは8つの学習内容グループと、学習者発達活動により構成されており、英語については外国語学習内容グループにおいて小学校第1学年より12年間履修するものとされている。

「2001年基礎教育カリキュラム」は、2003年度より各ステージの開始学年（小1、小4、中1、中4）から学年進行で実施され、2005年度に完全実施となっている。

ステージ	初等教育		中等教育	
	第1ステージ (小1-3)	第2ステージ (小4-6)	第3ステージ (中1-3)	第4ステージ (中4-6)
	義務教育			
	基礎教育			
学習内容グループ 8グループ				
①タイ語	●	●	●	●
②数学	●	●	●	●
③理科	●	●	●	●
④社会科・宗教・文化	●	●	●	●
⑤保健・体育	■	■	■	■
⑥芸術	■	■	■	■
⑦仕事・職業・テクノロジー	■	■	■	■
⑧外国語	■	■	■	■
学習者発達活動	▲	▲	▲	▲
学習時間	年間約 800-1,000時間	年間約 800-1,000時間	年間約 1,000-1,200時間	年間 1,200時間以上

備考

- 教育機関が思考、学習、問題解決の基礎を培うための柱とする学習内容
- 人間性を育成し、思考や仕事における基礎的能力を育成するための学習内容
- ▲ 8グループの学習内容以外の学習で潜在能力に基づいて自己発達を促す活動
なお、教育機関はターゲット集団の状況に応じて学習時間とそれぞれの学習内容グループを調整することができる。

図1 「2001年基礎教育カリキュラム」の構造

外国語学習内容グループはproficiency-basedと呼ばれる到達度を重視したカリキュラムとなっており、到達度に応じて①準備レベル Preparatory Level（小1～小3）、②初級レベル Beginner Level（小4～小6）、③発展レベル Developing Level（中1～中3）、④拡大レベル Expanding Level（中4～中6）、という4つのレベルに区分される。

「2001年基礎教育カリキュラム」は、その原理において「学習内容、学習時間および学習の提供の各面で弾力的な構造を持つカリキュラム」とされており、各学習内容グループの学習時間について明確な規定が設けられていない。具体的には、初等教育段階で

は、第1ステージ（小1～小3）、第2ステージ（小4～小6）ともに年間約800～1,000時間、一日平均4～5時間という大綱的な基準が定められているにすぎない（タイ教育省2001, p.7）。

こうした「2001年基礎教育カリキュラム」の大綱的な規定に対して、学校現場では混乱も見られたため、タイ教育省は「2001年基礎教育カリキュラム」を補足し、学校現場での教育課程編成のガイドラインとするために、各学習内容グループの「学習内容および学習水準の編成」を作成し、各学校に配布している。

「外国語学習内容グループの学習内容および学習水準の編成」においては、小学校段階における英語の学習時間モデルとして、以下のようにモデルを提示しており、第1ステージ（小1～小3）では基礎学習内容のみを週当たり2時間、第2ステージ（小4～小6）では週当たり2時間の基礎学習内容に加え、各学校が週当たり1～2時間の追加学習内容を設定するよう示されている。なお、基礎教育カリキュラムに示されている時間数はいずれも自然時間であり、実際に多くの学校において1時限は60分とされ、実質55分程度の授業が実施されている。

表3 「2001年基礎教育カリキュラム」における英語の学習時間モデル

第1ステージ（小1～小3）における英語の学習時間モデル

基礎学習内容	年間時間数	備考
英語 小1	80時間	週当たり2時間
英語 小2	80時間	週当たり2時間
英語 小3	80時間	週当たり2時間

第2ステージ（小4～小6）における英語の学習時間モデル

基礎学習内容	年間時間数	備考
英語 小4	80時間	週当たり2時間
英語 小5	80時間	週当たり2時間
英語 小6	80時間	週当たり2時間

追加学習内容	年間時間数	備考
-英語 リスニングスピーキング	40時間	それぞれ週当たり1時間
-英語 楽しいリーディング	40時間	
-英語 プロジェクトワーク	40時間	
-英語 コンピュータ	40時間	
-英語 ツーリスト英語	40時間	
-英語 暮らしの英語	40時間	

※ 追加学習内容については、学習者のニーズと関心、および教育機関の準備状況に応じて英語の追加学習内容の学習時間を設定する。

(2) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語の教育目標と水準

大綱的なコア・カリキュラムとして位置づけられる「2001年基礎教育カリキュラム」に

は、以下のように、各学習内容グループを横断する9つの目標が示されているが、学習内容グループ個別の目標は示されていない（タイ教育省2002, p. 4）。

1. 自分自身の価値を認識し、自律の精神をもち、仏教または自分が信仰する宗教の教義に基づいて行動し、望ましい道徳、倫理、価値観を身につけること。
2. 創造的に思考し、よく知り、よく学び、読み・書き・探求を愛好すること。
3. 普遍的知識を身につけ、科学的な進歩と繁栄、変化に対応でき、コミュニケーションおよびテクノロジーの活用における技能と能力を身につけ、状況に応じて考え方や仕事のやり方を調整すること。
4. 生活を営む技能、思考技能、知性の創造技能、特に数学的、科学的な技能および過程を有すること。
5. よく運動し、健康でよい人格を持つように自己管理すること。
6. 効率的な生産と消費を図り、消費者としてよりも生産者としての価値観を身につけること。
7. タイ国の歴史を理解し、タイ人らしさを誇りに思い、よき市民となり、国王を元首とする民主主義政体に基づく統治と生活様式を尊重すること。
8. タイ語、芸術、文化、伝統、スポーツ、タイの知恵、天然資源、自然環境の保護についての意識を高めること。
9. 国家と地方を愛する心をもち、社会に奉仕し、社会のために価値あるものを創造することをめざすこと。

一方、各学習内容グループには基礎教育12年間を通して学ぶべき最低限の内容と水準が示されており、外国語学習内容グループについては、表4に示すように4つの内容と8つの水準が示されている。

表4 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語学習内容
グループの内容と水準

基礎学習内容である外国語では、基礎教育カリキュラムを通して一貫して学習する言語を英語と定める。その他の外国語、例えばフランス語、ドイツ語、中国語、日本語、アラビア語、パーリ語、近隣諸国の言語、またはその他の言語といった外国語については、適切性に基づいて学習を提供する教科を策定する教育機関の公正な判断のもとにおくものとする。

<p>内容1： コミュニケーションのための言語 Communications</p>	<p>水準 F1.1： Interpretative Mode 聞くことと読むことの過程を理解し、さまざまな種類の媒体から聞き、読んだことを解釈することができ、知識を理性的に用いる。</p>
--	---

	<p>水準 F1.2 : Interpersonal Mode</p> <p>生涯学習のためにふさわしい処理およびテクノロジーを用いて、言語的コミュニケーション技能、資料・情報の交換技能、意見および表現技能を持つ。</p> <p>水準 F1.3 : Presentational Mode</p> <p>話すことと書くことや資料の伝達の過程、さまざまな事柄についての意見や要約した考えを、創造的、効率的、かつ美的に理解する。</p>
内容 2 : 言語と文化 Cultures	<p>水準 F2.1 : Nature of Language and Practices</p> <p>言語とその言語の話し手の文化との関係を理解し、時と場合に応じて活用できる。</p> <p>水準 F2.2 : Concept of Culture and Products</p> <p>言語およびその話し手の文化とタイ語・タイ文化との類似性と相違性を理解し、理性的に活用する。</p>
内容 3 : 言語と他の学習内容グループとの関係 Connections	<p>水準 F3.1 : Reinforcement and Acquisition</p> <p>知識と他の学習内容グループを連携させるために外国語を用い、自己の開発と視野を広げる基礎とする。</p>
内容 4 : 言語とコミュニティー・世界との関係 Communities	<p>水準 F4.1 : Learning and Enrichment</p> <p>教育機関、コミュニティー、社会におけるさまざまな状況に即して外国語を用いることができる。</p> <p>水準 F4.2 : Careers</p> <p>外国語を学習、仕事、職業への従事、協力関係の構築、社会における共生の道具として用いることができる。</p>

「2001年基礎教育カリキュラム」には、8つの水準までが示されているに過ぎないが、表5のように「外国語学習内容グループの学習内容および学習水準の編成」では各水準について、ステージ毎、さらには学年毎に望ましい学習成果を示している。この望ましい学習成果が各学校における授業計画作成の際の基準となっている。

表5 「2001年基礎教育カリキュラム」における各学習ステージの水準
および学年別の望ましい学習成果

1. 第1ステージ (小1～小3)

内容 1 : コミュニケーションのための言語

水準 F1.1 : 聞くことと読むことの過程を理解し、さまざまな種類の媒体から聞き、読んだことを解釈することができ、知識を理性的に用いる。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 身近な状況において、命令、要求、ジェスチャーおよび簡単な文章を理解できる。	1. 身近な状況において、命令、要求、ジェスチャーおよび簡単な文章を理解できる。	1. 教室において、命令、要求、ジェスチャーおよび簡単な文章を理解できる。	1. 学校において、命令、要求、ジェスチャーおよび簡単な文章を理解できる。
2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。
3. 語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または簡単な記号に転記できる。	3. 語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または簡単な記号に転記できる。	3. 語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または簡単な記号に転記できる。	3. 語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または簡単な記号に転記できる。
4. 絵が付いている会話、短いストーリーまたは簡単な昔話を理解できる。	4. 絵が付いている会話および簡単な昔話を理解できる。	4. 絵が付いている会話、短いストーリーまたは簡単な昔話を理解できる。	4. 絵が付いている会話、短いストーリーまたは簡単な昔話を理解できる。

水準 F1.2: 生涯学習のためにふさわしい処理およびテクノロジーを用いて、言語的コミュニケーション技能、資料・情報の交換技能、意見および表現技能を持つ。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 簡単なテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単に短い言葉を使える。	1. 人間関係構築のために簡単に短い言葉を使える。	1. 人間関係構築のために簡単に短い言葉を使える。	1. 簡単なテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単に短い言葉を使える。
2. 学校が持っている簡単なテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現するために簡単に短い言葉を使える。	2. 自分の要求を表現するために簡単に短い言葉を使える。	2. 自分の要求を表現するために簡単に短い言葉を使える。	2. 学校が持っている簡単なテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現するために簡単に短い言葉を使える。
3. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、人物および身の回りにある物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したりできる。	—	3. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、人物および身の回りにある物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したりできる。	3. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、人物および身の回りにある物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したりできる。
4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現するために、簡単な言葉を使い、外国語の有効な学習法についても知る。	—	4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現するために、簡単な言葉を使い、外国語の有効な学習法についても知る。	4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現するために、簡単な言葉を使い、外国語の有効な学習法についても知る。

水準 F1.3: 話すことと書くことや資料の伝達の過程、さまざまな事柄についての意見や要約した考えを、創造的、効率的、かつ美的に理解する。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. ジェスチャー、絵、語彙および短い文章で自分および一般の身の回りの物についての情報を提供できる。	1. ジェスチャー、絵、語彙および短い文章で自分および一般の身の回りの物についての情報を提供できる。	1. ジェスチャー、絵、語彙および短い文章で自分および一般の身の回りの物についての情報を提供できる。	1. ジェスチャー、絵、語彙および短い文章で自分および一般の身の回りの物についての情報を提供できる。
2. 年齢に応じ、関心のある楽しい言語学的活動を提供できる。	2. 年齢に応じ、関心のある楽しい言語学的活動を提供できる。	2. 年齢に応じ、関心のある楽しい言語学的活動を提供できる。	2. 年齢に応じ、関心のある楽しい言語学的活動を提供できる。
3. 日常生活についての様々な情報についてまとめて発表できる。	—	—	3. 日常生活についての様々な情報についてまとめて提供できる。
4. 事実に対して正しく意見を言える。	—	—	4. 事実に対して正しく意見を言える。

内容2: 言語と文化

水準 F2.1: 言語とその言語の話し手の文化との関係を理解し、時と場合に応じて活用できる。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。
2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。

水準 F2.2：言語およびその話し手の文化とタイ語・タイ文化との類似性と相違性を理解し、理性的に活用する。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. タイ語と外国語との音声、母音、子音、語彙、フレーズ、文および簡単な文章の違いが理解できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音および語彙の違いが理解できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音、語彙、フレーズおよび簡単な文の違いが理解できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音、語彙、フレーズ、文および簡単な文章の違いが理解できる。
2. タイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. タイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. タイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. タイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。
3. 知識探求および娯楽のために英語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求および娯楽のために英語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求および娯楽のために英語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求および娯楽のために英語ができることのメリットを分かる。
4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。

内容3：言語と他の学習内容グループとの関係

水準 F3.1: 知識と他の学習内容グループを連携させるために外国語を用い、自己の開発と視野を広げる基礎とする。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 他の学習内容グループに関係する外国語の語彙、フレーズを理解できる。	1. 他の学習内容グループに関係する外国語の語彙、フレーズを理解できる。	1. 他の学習内容グループに関係する外国語の語彙、フレーズを理解できる。	1. 他の学習内容グループに関係する外国語の語彙、フレーズを理解できる。
2. 他の学習内容グループに関係する語彙およびフレーズの意味を外国語に翻訳できる。	—	—	2. 他の学習内容グループに関係する語彙およびフレーズの意味を英語に翻訳できる。

内容4：言語とコミュニティーや世界との関係

水準 F4.1：教育機関、コミュニティー、社会におけるさまざまな状況に即して外国語を用いることができる。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 学校の様々な状況において外国語を使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を使用できる。

水準 F4.2：外国語を学習、仕事、職業への従事、協力関係の構築、社会における共生の道具として用いることができる。

第1ステージの学習水準 (小1～小3)	年間の望ましい学習成果		
	小1	小2	小3
1. 自分の地域において様々な職業について基礎的コミュニケーションのために外国語を使用できる。	—	—	1. 自分の地域において様々な職業について基礎的コミュニケーションのために英語を使用できる。

2. 第2ステージ (小4～小6)

内容1：コミュニケーションのための言語

水準 F1.1：聞くことと読むことの過程を理解し、さまざまな種類の媒体から聞き、読んだことを解釈することができ、知識を理性的に用いる。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 身の回りの社会において、命令、要求、ジェスチャーおよびアドバイスを理解できる。	1. 学校において、命令、要求、ジェスチャーおよびアドバイスを理解できる。	1. 学校および身の回りの社会において、命令、要求、ジェスチャーおよびアドバイスを理解できる。	1. 学校および身の回りの社会において、命令、要求、ジェスチャーおよびアドバイスを理解できる。
2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。	2. 発音法に基づいて語彙、フレーズおよび簡単な文章を正しく発音できる。

3. 短い文、文章を理解し、絵または記号に転記できる。そして、語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または記号から短い文または文章に転記できる。	3. 短い文、文章を理解し、絵または記号に転記できる。そして、語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または記号から語彙および短い文に転記できる。	3. 短い文、文章を理解し、絵または記号に転記できる。そして、語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または記号から文に転記できる。	3. 短い文、文章を理解し、絵または記号に転記できる。そして、語彙、フレーズおよび文章を理解し、絵または記号から短い文または文章に転記できる。
4. 会話、短いストーリー、物語および簡単な昔話を理解できる。	4. 会話および短いストーリーを理解できる。	4. 会話、短いストーリーおよび物語を理解できる。	4. 会話、短いストーリー、物語および簡単な昔話を理解できる。

水準 F1.2: 生涯学習のためにふさわしい処理およびテクノロジーを用いて、言語的コミュニケーション技能、資料・情報の交換技能、意見および表現技能を持つ。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 学校が持っているテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単な言葉を使える。	1. 学校が持っているテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単な言葉を使える。	1. 学校が持っているテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単な言葉を使える。	1. 学校が持っているテクノロジー媒体を用いて、人間関係構築のために簡単な言葉を使える。
2. 学校内外にあるテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現し、他人の手伝いを申し出、意見交換をするために簡単な言葉を使える。	2. 学校内外にあるテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現し、意見交換をするために簡単な言葉を使える。	2. 学校内外にあるテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現し、他人の手伝いを申し出、意見交換をするために簡単な言葉を使える。	2. 学校内外にあるテクノロジー媒体を用いて、自分の要求を表現し、他人の手伝いを申し出、意見交換をするために簡単な言葉を使える。
3. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、人物および日常生活で出会う物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したり、説明したりできる。	3. 人物および日常生活で出会う物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したり、説明したりできる。	3. 言語学的学習教材から、人物および日常生活で出会う物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したり、説明したりでき、知識を構築できる。	3. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、人物および日常生活で出会う物について簡単な言葉で情報を聞いたり、提供したり、説明したりでき、知識を構築できる。
4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現し、理由をいうために、簡単な言葉を使え、外国語の有効な学習法についても知る。	4. 言語学的学習教材から、自分の感情を表現し、理由をいうために、簡単な言葉を使える。	4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現し、理由をいうために、簡単な言葉を使える。	4. 言語学的学習教材および様々な技能練習成果から、自分の感情を表現し、理由をいうために、簡単な言葉を使え、英語の有効な学習法についても知る。

水準 F1.3: 話すことと書くことや資料の伝達の過程、さまざまな事柄についての意見や要約した考えを創造的、効率的、かつ美的に理解する。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 短い文章で自分、身の回りの物および社会についての情報を提供できる。	1. 短い文章で自分、家族についての情報を提供できる。	1. 短い文章で自分、家族および学校についての情報を提供できる。	1. 短い文章で自分、身の回りの物および社会についての情報を提供できる。
2. 身近なことについての情報をまとめて発表できる。	2. 身近なことについての情報をまとめて発表できる。	2. 身近なことについての情報をまとめて発表できる。	2. 身近なことについての情報をまとめて発表できる。
3. 身近な様々なことについて理性を持ち、意見を表現できる。	3. 身近な様々なことについて意見を合理的に表現できる。	3. 身近な様々なことについて意見を合理的に表現できる。	3. 身近な様々なことについて理性を持ち、意見を表現できる。
4. 関心のある楽しく、知っている歌または詩または様々な媒体から得られた情報を発表できる。	4. 関心のある楽しく、知っている歌または詩または様々な媒体から得られた情報を発表できる。	4. 関心のある楽しく、知っている歌または詩または様々な媒体から得られた情報を発表できる。	4. 関心のある楽しく、知っている歌または詩または様々な媒体から得られた情報を発表できる。

内容2：言語と文化

水準 F2.1：言語とその言語の話し手の文化との関係を理解し、時と場合に応じて活用できる。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。	1. 母語者文化のコミュニケーションに準じた行動および簡単な表現を理解できる。
2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。	2. 母語者文化の伝統・慣習・祭り・お祝いを知る。

水準 F2.2：言語およびその話し手の文化とタイ語・タイ文化との類似性と相違性を理解し、理性的に活用する。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. タイ語と外国語との音声、母音、子音、語彙、フレーズ、文および簡単な文章の違いが理解でき、正しく使用できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音、語彙、フレーズおよび文の違いが理解でき、正しく使用できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音、語彙、フレーズ、文および簡単な文章の違いが理解でき、正しく使用できる。	1. タイ語と英語との音声、母音、子音、語彙、フレーズ、文および簡単な文章の違いが理解でき、正しく使用できる。
2. 言語使用および適切使用に影響するタイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. 言語使用および適切使用に影響するタイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. 言語使用および適切使用に影響するタイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。	2. 言語使用および適切使用に影響するタイ文化と母語者文化の共通点および相違点を理解できる。
3. 知識探求、娯楽および社交のために外国語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求および娯楽のために外国語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求、娯楽および社交のために外国語ができることのメリットを分かる。	3. 知識探求、娯楽および社交のために外国語ができることのメリットを分かる。
4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。	4. 言語学および文化的活動へ参加する関心を持つ。

内容3：言語と他の学習内容グループとの関係

水準 F3.1：知識と他の学習内容グループを連携させるために外国語を用い、自己の開発と視野を広げる基礎とする。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 他の学習内容グループに関係する簡単な外国語の内容を理解し、伝達できる。	1. 他の学習内容グループに関係する簡単な英語の内容を理解できる。	1. 他の学習内容グループに関係する簡単な英語の内容を理解し、伝達できる。	1. 他の学習内容グループに関係する簡単な英語の内容を理解し、伝達できる。
2. 他の学習内容グループに関係する内容を外国語で理解し、伝達できる。	2. 他の学習内容グループに関係する内容を英語で理解し、伝達できる。	2. 他の学習内容グループに関係する内容を英語で理解し、伝達できる。	2. 他の学習内容グループに関係する内容を英語で理解し、伝達できる。

内容4：言語とコミュニティーや世界との関係

水準 F4.1：教育機関、コミュニティー、社会におけるさまざまな状況に即して外国語を用いることができる。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. 学校の様々な状況において外国語を様々な方法および形態で使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を様々な方法および形態で使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を様々な方法および形態で使用できる。	1. 学校の様々な状況において英語を様々な方法および形態で使用できる。
2. 学校内の人物と外国語でコミュニケーションできる。	2. 学校内の人物と英語でコミュニケーションできる。	2. 学校内の人物と英語でコミュニケーションできる。	2. 学校内の人物と英語でコミュニケーションできる。

水準 F4.2：外国語を学習、仕事、職業への従事、協力関係の構築、社会における共生の道具として用いることができる。

第2ステージの学習水準 (小4～小6)	年間の望ましい学習成果		
	小4	小5	小6
1. シミュレーションまたは実際の状況において様々な職業について基礎的コミュニケーションのために外国語を使用できる。	1. シミュレーションにおいて様々な職業について基礎的コミュニケーションのために英語を使用できる。	1. シミュレーションまたは実際の状況において様々な職業について基礎的コミュニケーションのために英語を使用できる。	1. シミュレーションまたは実際の状況において様々な職業について基礎的コミュニケーションのために英語を使用できる。
2. 外国語を使って、他人と幸せに仕事ができ、他人の意見を聞き、自分の意見を適宜表現する。	2. 英語を使って、他人と幸せに仕事ができ、他人の意見を聞き、自分の意見を適宜表現する。	2. 英語を使って、他人と幸せに仕事ができ、他人の意見を聞き、自分の意見を適宜表現する。	2. 英語を使って、他人と幸せに仕事ができ、他人の意見を聞き、自分の意見を適宜表現する。

(3) 「2001年基礎教育カリキュラム」における外国語学習内容グループの評価方法

「2001年基礎教育カリキュラム」においては、学習成果の評価について、①学年レベルの評価、②学校レベルの評価、③国家レベルの評価の3段階の評価をする必要があると定めている。日常的な学習成果についての児童生徒ひとりひとりの評価は、主に①の学年レベルの評価によるが、同カリキュラムによると、学年レベルの評価は、学習活動の成果として、学習者の知識、技能、道徳、望ましい価値の面での進歩がどの程度見られたのかを明らかにすることを目的とし、ペーパーテストによる到達度のほか、態度、共同活動やプロジェクト学習の成果、ポートフォリオ等を用いて、多様な方法によって評価することを求めている。

外国語学習内容グループについてみると、「外国語学習内容グループの学習内容および学習水準の編成」に各ステージの到達目標が示されている。語彙についてみると、第1ステージ(小1～小3)修了時で累計300～450語(具体語)、第2ステージ(小4～小6)修了時で累計1,050～1,200語(具体語と抽象語)となっており、「1999年英語教育カリキュラム」に比べ、小学校第6学年段階で、300語ほど削減されている。

表6 外国語学習内容グループにおける各ステージ修了時の到達目標

第1ステージ(小1～小3)修了段階
1. 自分、日常生活、および周囲の状況について、外国語を理解し、使用することができ、情報の交換、および発表ができる。 2. 300から450語(具体語)の範囲内で、自分、家族、学校、周囲の状況、食べ物、飲み物、対人関係について(聞いたり、話したり)外国語を使用することができる。 3. 一語文および単文を使って、日常生活の状況において会話ができる。 4. 学年に応じてネイティブスピーカーの生活および言語の文化についての知識、理解を持つ。 5. 外国語を使って、関心および年齢に応じて他の学習内容グループの知識について発表する能力を持つ。 6. 知識探求および楽しみのために、教室および学校内での言語使用能力を持つ。
第2ステージ(小4～小6)修了段階
1. 自分、日常生活、コミュニティ内の状況について、外国語を理解し、使用することができ、情報の交換、および発表ができ、人間関係を作ることができる。

2. 1,050から1,200語（具体語と抽象語）の範囲内で、自分、家族、学校、状況、食べ物、飲み物、対人関係、趣味、健康・福祉、売買、気候について（聞いたり、話したり、読んだり）外国語を使用することができる。
3. 単文および重文を使って、さまざまな文脈において、意味を伝達することができる。
4. 様々な文脈において、公式および非公式な会話のText Information および Non-text Informationのメッセージを理解することができる。
5. 各学年で経験するメッセージの文脈において、ネイティブスピーカーの生活および言語の文化についての知識、理解を持つ。
6. 外国語を使って、関心および学年に応じて他の学習内容グループの知識について発表でき情報収集する能力を持つ。
7. 追加知識探求および楽しみのために、教室および学校内での言語使用能力を持つ。

第3ステージ（中1～中3）修了段階

1. 対人関係に関する情報を交換し、提示するために外国語を理解して使う。正しい発音と特定の状況にふさわしい身振りや抑揚で、感情、考え、結論を表現する。
2. 2,100から2,250語（具体語と抽象語）の範囲内で、自分、家族、学校、周囲の状況に関するコミュニケーションが可能なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの能力を有する。飲食物、対人関係、趣味と福祉、売買、気候、教育と職業、観光業と旅行、サービス、場所、言語、科学技術関連の話題について外国語を使用することができる。
3. 重文と複文を使って、さまざまな文脈において、公式および非公式な会話での意味を伝達することができる。
4. 公式および非公式な会話で、Discourse Markers の付いているText Information および Non-text Informationのメッセージを読み、書きすることができる。
5. 発展レベルで期待される難度に合ったネイティブスピーカーの言語文化、習慣、伝統を学び、理解することができる。
6. 発展レベルで期待されるスキルの難度に合った他の学習内容グループの知識について外国語を使って、情報収集する能力を持つ。
7. 継続的な追加知識探求、楽しみ、進学と仕事の基礎のために、学校の内外において、外国語を使用する訓練をする。

第4ステージ（中4～中6）修了段階

1. 対人関係に関する情報を交換し、提示するために外国語を理解して使う。正しい発音と特定の状況にふさわしい身振りや抑揚で、感情、考え、結論を表現する。
2. 3,600から3,750語（さまざまな使用レベル）の範囲内で、自分、家族、学校、周囲の状況に関するコミュニケーションが可能なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの能力を有する。飲食物、対人関係、趣味と福祉、売買、気候、教育と職業、観光業と旅行、サービス、場所、言語、科学技術関連の話題について外国語を使用することができる。
3. 重文と複文を使って、さまざまな文脈において、公式および非公式な会話での意味を伝達することができる。
4. 公式および非公式な会話で、Discourse Markers の付いているText Information および Non-text Informationのメッセージを読み、書きすることができる。
5. 拡大レベルで期待される難度に合ったネイティブスピーカーの言語文化、習慣、伝統を学び、理解することができ、特定の状況に応じてその言語を使うことができる。
6. 拡大レベルで期待されるスキルの難度に合った他の学習内容グループの知識について外国語を使って、情報収集する能力を持つ。
7. 継続的な追加知識探求、楽しみ、進学と仕事の基礎のために、学校の内外において、外国語を使用する訓練をする。

基礎教育カリキュラム実施以前の評価は0点から4点までの5段階評価が一般的であったが、基礎教育カリキュラム実施にあたっては以下のようにより細分化された8段階評価

を用いることもできることとなった。タイ教育省のガイドラインによると、2005年度以降に第4ステージを修了する者については、8段階評価を標準とするが第1～第3ステージについては従来の5段階を使用するか8段階評価をするかは学校が任意に選択できるとされている（タイ教育省基礎教育委員会事務局学術・教育水準課2004，p.13）。

表7 基礎教育カリキュラムにおける8段階評価の基準

学習成果のレベル	意味	得点の幅 (%)
4	特別に優秀	80～100
3.5	非常に優秀	75～79
3	優秀	70～74
2.5	よい成績	65～69
2	満足	60～64
1.5	可もなし	55～59
1	最低基準で合格	50～54
0	基準以下	0～49

Ⅲ. 必修化に伴う条件整備

1. 教科書と教材

「2001年基礎教育カリキュラム」実施以前のタイの小学校における教科書は、タイ教育省著作の国定教科書と民間会社著作で検定を受けた教科書が使用されてきた⁽²⁾。

「2001年基礎教育カリキュラム」においては、教科書についても弾力化がはかられ、教科書については従来の厳密な検定制度は廃止され、タイ教育省が民間教科書会社発行の教科書・教材や輸入教科書・教材について簡単な審査が行われた上で認定されることとなった。認定されたものを、タイ教育省が基礎教育カリキュラム用の教科書・教材としてリストアップし、各学校に通達する。具体的には、教科書については、2004年のタイ教育省通達では「タイ語」、「数学」、「理科」、「社会科・宗教・文化」「外国語」の5つの学習内容グループの教科書のみがリストアップされ、教材については「タイ語」「数学」「初等教育段階の英語」のみがリストアップされ、他の教科書・教材の選択は自由とされた。教科書の採択は、原則として各学校が組織する学校委員会（基礎教育機関運営委員会）に任されているが、全国を175に区分した地方教育行政組織である教育地区が採択する教科書を定める場合もある。

なお、学校委員会は校長または教頭を委員長とし、当該学習内容グループの責任者、その他の教員により構成される。

この結果、英語の教科書については、輸入教科書が急増することとなった。例えば、オックスフォード大学出版局の教科書だけでも、3種類が小学校英語の教科書として認可されている。具体的には、以下の3種類でそれぞれに特徴あるものとなっている。

①Let's Go: Second Edition (アメリカ英語、英語初級から中級段階、全6レベル)

文法のシラバスと機能的な会話により構成されており、実用的で自然な英語を身につけるよう工夫されている、

②Get Set -Go! (イギリス英語、6歳児以上対象、全6レベル)

構造化されたシラバスとチャイルドセンター・アクティビティにより学べるように構成されている、

③I-SPY (イギリス英語、7歳児以上、全4レベル)

リスニング中心、特徴的なキャラクターや漫画、クロスワード等を多用して楽しく学べるよう構成されている。

このように、輸入教科書は、イギリス英語とアメリカ英語の両方が選択できるようになっている。内容面についてみると、これらの輸入教科書は各国で使用できるようデザインされているが、人名や食文化といった生活文化に関わる部分については、現地タイの実情に即していない部分も散見される。

一方、国定教科書についても、「2001年基礎教育カリキュラム」に準拠した新しい教科書・教材シリーズ“Projects: Play & Learn”が学年毎に作成された。同シリーズは①教科書 (Student Book)、②ワークブック (Activity Book)、③教員用指導書 (Teacher's Book)、④カセットテープ、CDなどの音声教材の4つにより構成されている。同シリーズは標題に示されるようにプロジェクト・ベース・アプローチに則った構造となっており、主題となるプロジェクトを1学年あたり8つ設定し、プロジェクトに即して、理科的内容や数学的な内容なども含めた多彩な学習活動ができるよう工夫されている。教科書 (Student Book) は、第1学年よりほぼ英語のみで記述されており、ダイレクトメソッドによる英語学習が徹底されている。

表8 国定教科書“Projects: Play & Learn”のプロジェクト構成

第1学年用	第2学年用	第3学年用
1. Myself	1. Myself	1. All about Us
2. My Family	2. My Family	2. Home Sweet Home
3. My Friends	3. Good Friends	3. Keeping Healthy

4 . My Food	4 . Bananas	4 . Good Food
5 . My Day	5 . In the Playground	5 . Country & City Life
6 . My Things	6 . Happy New Year	6 . It's New Year
7 . My Animals	7 . Birds & Insects	7 . Plants We Eat
8 . My Trees	8 . Air	8 . Care & Clean

第4学年用	第5学年用	第6学年用
1 . Me and My Family	1 . Our Guest	1 . You and Me
2 . My House and Home	2 . Our Housework	2 . Home Sweet Home
3 . Life at School	3 . Off We Go	3 . Off We Go
4 . My Food & Health	4 . Our Food & Health	4 . Food & Health
5 . At the Weekend	5 . Our Free Time	5 . Our Story Corner
6 . My Town	6 . To Market	6 . Gifts & Wishes
7 . Animals around Us	7 . Our Farm	7 . Animals Big & Small
8 . Seasons	8 . Water	8 . Camp & Trips

2. ネイティブスピーカーの確保と配置

タイ教育省は英語教育におけるネイティブスピーカー配置の重要性を強く認識している。一方で、ネイティブスピーカーの配置は、給与や福利厚生等の待遇面で財政的に大きな負担となるため、国公立小学校においては英語教育推進指定校などごく一部の学校を除き、正規の教員としてネイティブスピーカーは配置されていない。

そこでタイ教育省は、ボランティア英語教員としてのネイティブスピーカーを1万人募集する施策を打ち出し、現在ホームページや各国のタイ王国大使館等を通して応募を呼びかけている。このボランティアの資格は、①英語のネイティブスピーカーであること（オーストラリア、カナダ、イギリス、ニュージーランド等出身）、②任意の分野で学士号を有していること、③高い動機を有した活動的な男女、望ましくは若年層であること、④地方部で暮らすことができる者、⑤勤労に対する高い意欲を持ち、進んで地方部の子どもたちの為に奉仕しようとする者となっており、ボランティア英語教員は年間契約で1年間の就業ビザが与えられ、ホームステイ先や医療保険の他、最低限の手当も支給されることとなっている。ボランティア英語教員は3ヶ月から4ヶ月毎に、地方部の各県を移動し、小学校や中等学校を巡回して英語指導にあたることとなっている。

ボランティア英語教員1万人を集めようとする同プロジェクトであるが、広報不足や待遇面の問題からか応募状況は見込みを大幅に下回っており、2005年11月4日現在の応募者は259名にすぎない（タイ教育省教育イノベーション課ホームページより）。このためタイ教

育省担当部局では、今後のネイティブスピーカー確保のための改善方針を検討している。

3. 教員養成

(1) 免許制度への移行

1999年国家教育法体制以前のタイは、ながらく教員資格制をとってきたが、1999年国家教育法第53条は高等教育機関を除く教員、地方の教育機関管理職者、および教員行政官のための組織の設置と、免許状の発行を規定した。

これにより2003年6月には「教員および教育行政官審議会法」が公布され、クルサパー（英訳はTeachers Council of Thailand）と称される管理組織が設置され、2005年より免許制度が実施されることとなった。

この免許制度の特徴は、以下の2点にまとめられる。

第1に、教員のみならず、学校の校長や教頭（学校管理職者）および地方の教育行政官に免許取得を課したことである。

第2に、教員の基礎資格について、満20歳以上、学士号または同等の学位を持つもの、クルサパーの定めた教育機関において1年間以上の教育実習を修了した者とされている点である。これによって2004年度より、教員養成課程が従来の4年間から、1年間の教育実習を加えた5年間へと引き上げられた。

なお、この免許は更新制となっており、クルサパーが免許剥奪の権限も有している点も特徴といえる。

(2) ラチャパット地域総合大学における教員養成課程

2004年度より教員養成課程が5年制へと移行したことによって、各教育機関の教員養成課程は、2005年度現在、1年次と2年次が5年制の新カリキュラム、3年次以上が4年制の旧カリキュラムを履修しているという新旧併存状態にある。

クルサパーより認証を受けている教員養成機関は、全国に66箇所あるが、うち41箇所がラチャパット地域総合大学と呼ばれる国立の旧教員養成専門学校であり、その他は各大学の教員養成学部となっている⁽³⁾。現在のラチャパット地域総合大学は教育学部に加えて、人文・社会科学部、理工学部、経営学部の4学部を中心に他の学部も開設され、大学院の設置も認められるようになり、総合大学として急速に整備されつつある。ラチャパット地域総合大学は一般に、2つの課程（正規課程と社会人課程）について、3つのプログラム（4／5年制学士プログラム、2年制学士プログラム、2年制準学士プログラム）が設置されており、合計6つのプログラムから選択できるようになっている。2年制学士プログラムは、準学士を取得した者が、学士号を取得するために、継続して履修したり、一旦社会に出た後に入学するために開設されている。

ラチャパット地域総合大学のカリキュラムについては、2004年6月に独立法人化する以前は一般の大学とは異なり、全国共通のカリキュラムが使用されていた。独立法人化を契機に、各機関が独自のカリキュラムを作成・使用することとなった。その際、独立法人化以前より5年制教員養成課程のシラバス作成に着手していたスワンスナター校が他校に先駆けてモデル・カリキュラムとして5年制教員養成課程カリキュラムを作成し、他校はそれを参考に各校独自のカリキュラムを作成した。

スワンスナター校の5年制教員養成課程カリキュラムは以下に示す通りである。卒業要件単位についてみると、一般教養科目が30単位、実習を除いた教科教育科目が30単位であるのに対し、専門科目（各教科別のほか幼児教育と特殊教育に区分される）が80単位と2倍以上の単位取得が求められている点が特徴である。専門科目には英語科もありその構成は、①リスニングスピーキング、②リーディングライティング、③言語学、④翻訳、⑤文化、⑥文学、⑦英語学習により構成されており、全科目必修となっている。

表9 ラチャパット地域総合大学スワンスナター校の教員学士カリキュラム

科目グループ	単位数
一般教養	30単位 以上
教職科目グループ	55単位 以上
－教職科目	うち 30単位以上
－教育実習科目	うち 25単位（1,125時間）以上
専門科目グループ※	80単位 以上
自由選択科目グループ	6単位 以上
卒業単位 計	171単位以上

※ 1. 単独専攻の場合、1分野80単位以上。 2. 主要2専攻の場合、各分野40単位以上

※ 専門科目グループの構成 計8分野

1. タイ語 2. 数学 3. 社会科 4. 理科 5. 英語 6. 特殊教育
7. 幼児教育 8. 芸術

教員学士カリキュラム・専門科目グループ（英語分野）の構造

グループ/科目モジュール	単位数
リスニングスピーキング グループ	
ENGL101 English for Social Communication Purposes	5
ENGL102 Advanced Communicative English	5
ENGL103 English for Academic Communication Purposes	5
リーディングライティング グループ	
ENGL201 Reading and Writing English for Social and Personal Purposes	5
ENGL202 Reading and Writing English for English Language Teachers	5
ENGL203 Critical Reading and Writing in English	5
ENGL204 Reading and Writing English for Academic Purposes I	5
ENGL205 Reading and Writing English for Academic Purposes II	5

言語学 グループ	
ENGL301 Linguistics for Classroom Application I	5
ENGL302 Linguistics for Classroom Application II	5
ENGL303 Linguistics for Reading Skills Development	5
翻訳 グループ	
ENGL401 Translation in Daily Life	5
文化 グループ	
ENGL501 English for Cultural Communication	5
文学 グループ	
ENGL601 English and American Literature	5
英語学習 グループ	
ENGL701 Evaluating and Developing Teaching Innovation	5
ENGL702 Language Learning Assessment	5

なお、教職科目 30 単位の構成は、①Foundation in Education and Inclusive Education、②Nature of the Learner、③Curriculum and Management of Learning、④Learning Innovation、⑤Teacher Professional Development、⑥Research for Learning Development の各 5 単位、計 6 科目となっている（ラチャパット地域総合大学スワンスンター校 2004, p. 12）。

このように教職科目で教育課程や学習論を学んだ上で、タイ語、数学、社会科、理科、英語といった専門分野を履修する構造となっている。

4. 国レベルの英語教育特別支援事業

(1) タイ教育省による英語教員担当教員の資質向上施策

タイの小学校教員は、一般に学級担任制であり、クラス担任が各教科を教える。しかしながら近年では、英語やコンピュータなど比較的高度な専門性を必要とする教科については専科制が導入されるようになってきている。英語については、タイ教育省によると全体の 2 割程度が英語専科教員であるというが、この割合をさらに増やすことを目指している。

2003 年 12 月 20 日の内閣閣議決定により、タイ教育省は「英語教育担当教員の英語使用技能および言語教授スキル向上プロジェクト」を実施することとなった。同プロジェクトは、以下の重要な戦略を持っている。

1. すべての学校は英語科目の時間に、英語を主な教授言語として教授する。
2. English Program 学校および Mini English Program 学校の拡充と支援を促す。プログラムの総生徒数の 20% は、学費を支払えない経済的に問題を抱える児童生徒を受け入れる。
3. すべての学校は、英語キャンプを毎年の活動として実施する。
4. 初等・中等教育段階および職業教育における英語教員の開発を促し、基準に定めら

れた知識、能力、技能をもたらすようにする。

5. すでにある 88 の ERIC センター（英語教育リソース活用センター、English Resource and Instruction Center）を 175 の教育地区のすべてに設立・開発する。すでにある 76 の自己英語学習センター（Self Access Learning Center）および教員協会を開発し、ERIC センターとネットワークをつなぐ。
6. 追加の支援
 6. 1 国内外の教育機関、様々な組織との協力を促進し、英語教員が自費、または一部政府の支援を受けて、留学・研修できるようにする。
 6. 2 英語能力が優秀で、学習教授を効率よく実施できる英語教員に対し、特別な報酬を与える。
 6. 3 英語の電子図書（E-book）を作る。
 6. 4 英語の教育テレビ（ETV）および衛星教育テレビの番組を制作する。
 6. 5 Eラーニングによる学習教授を支援する。
 6. 6 インターネット使用を支援する。
 6. 7 教員が自分で教材を作成できるよう能力向上をはかる。
7. 英語教育促進組織を設立し、タイ教育省がすでに持っている人材および予算を活用する。

出典：http://www.moe.go.th/web_studyenglish/about.htm, visited on October 2, 2005

同プロジェクトは現在も継続しており、2004 年度にもタイ教育省は 3 億 5 千万バーツ（日本円で約 10 億円）の予算を投じて支援を行っている。2004 年度は、①英語教育担当教員の英語教授に関する質の向上、②英語教育担当教員と地方の観光事業者の英語技能の向上、③英語教授スキル向上と観光業の促進を目指した高等教育機関と基礎教育諸学校との全国レベルの連携ネットワーク作り、④教員と地方の観光業従事者をはじめとする他の職業の者との英語能力向上のためのネットワーク作り、⑤国際的な各分野における競争力を高める上での基本的資質としてのタイ人の英語使用能力の向上、の 5 つを目標とし、英語を観光産業のためのツーリスト英語として重視し、グローバル化時代における国際的な競争力向上のための基本的資質とみなして事業を実施した点が特徴である。

同プログラムの対象は、全国 76 県のうち観光業が重要な産業となっている 30 県の初等・中等教育段階の英語教員およそ 1 万 5 千人に上った。

（2）英語教育担当教員の資質に関する調査結果

先に述べたスキル向上プロジェクトでは、基礎教育諸学校の英語教員担当教員約 9 万 8 千人に対し、英語教員としての資質に関する大規模な調査を実施している。その結果は表

10 に示すとおりであるが、取得学位については学士号が 85.28% (83,545 人) と圧倒的に多く、英語を主専攻ないし副専攻としていた者は両者を合計しても 20.46% (20,042 人) に過ぎないことが明らかとなった。

英語教員としての評価についても、自己評価で「改善の余地あり」と評価したものが過半数の 51.93% (49,189 人) に上っていた。

表 10 基礎教育諸学校英語教員担当教員の資質に関する調査結果 (2004 年度)

全国の 対象教員数 (175 教育地区)	取得学位			英語主専攻	英語副専攻
	学士	修士	その他		
97,961 人	83,545 人 (85.28%)	4,001 人 (4.08%)	10,415 人 (10.63%)	17,848 人 (18.22%)	2,194 人 (2.24%)

評価					
自己による評価			管理者 (校長) による評価		
よい	普通	改善余地あり	よい	普通	改善余地あり
6,931 人 (7.32%)	38,600 人 (40.75%)	49,189 人 (51.93%)	23,189 人 (26.97%)	32,048 人 (37.27%)	30,755 人 (35.76%)

出所：タイ教育省基礎教育委員会事務局『教員の英語使用・技能開発および学習教授の効率化向上プロジェクトに基づく外国語学習内容グループ(英語)の教員の資質評価報告』2005 年 (内部資料)。

以上のように、英語教員の資質に問題があることを教員自身も認識しており、こうした問題状況の認識が大規模な英語教育支援プログラムの実施につながっているということもできる。

IV. 成果と課題－「英語教育改善のための戦略会議」に見る英語教育の課題－

「1996年英語教育カリキュラム」により小学校英語教育が必修化され、9年経過しているが、その実施にあたってはいまだに多くの問題点を抱えている。

そこで文部大臣の諮問を受け、2005年8月27日から28日にかけて「英語教育改善のための戦略会議」が開催され、英語教育の問題点や今後の課題が全面的に検討された。同会議の目的は、英語教育改善のための戦略についてその実施計画を策定することにあつた。実施計画策定のためのワーキンググループには、基礎教育委員会事務局、職業教育委員会事務局、高等教育委員会事務局、および教育政策立案を担当する教育審議会事務局の各事務

局長をはじめとして、英語教育の実務担当者のほか、大学教員、English Program学校協会会長、ブリティッシュ・カウンシルの代表者、アメリカ留学同窓会であり語学学校も経営するA.U.A. (American University Alumni) の代表者等も構成員として加わり、英語教育改善のための戦略について幅広い見地から検討された。

従来の英語教育に対する認識については、教育大臣チャトゥロン・チャイセーンによるキーノート・スピーチに端的に示されている。すなわち、グローバル化時代において英語による情報収集が不可欠であり、コミュニケーションのために英語を使用できることこそがタイにおける英語教育にとって重要であるが、タイの英語教育はコミュニケーション重視を打ち出しながらも実際には、ペーパーテストや文法のための暗記中心の英語学習から脱却できておらず、コミュニケーションのための英語使用能力を身につけていないという批判である。

こうした認識に立った上で打ち出されたのが、「国家の競争能力向上のためのタイ国民の英語使用能力向上戦略計画（2005年～2015年）」である。同計画の目標は、以下の6つでありコミュニケーションのための英語使用能力の獲得を重視していることが明らかである。

- 1 タイの子ども・青年はコミュニケーションのための英語使用に対するよい態度を持ち、英語を使用する経験を持つ。
- 2 タイ国民はコミュニケーション、知識追求、娯楽、職業、継続的自己開発のために英語を使用できる。
- 3 義務教育修了者はコミュニケーションおよび知識探求のために英語を使用できる。
- 4 後期中等教育段階修了者は進学および職業のために英語を使用できる。
- 5 職業教育および高等教育修了者は職業および進学のために英語を使用できる。
- 6 就業年齢にある者はコミュニケーションおよび職業のために英語を使用できる。

さらに同計画は、タイ国民の英語使用能力を向上させるために2015年までに改善・克服すべき項目として、①政策、②カリキュラム、③学習教授、④教科書および教材、⑤評価、⑥教員、⑦行政、の7領域に関する英語教育実施上の具体的な問題点を示した。

表11 「国家の競争能力向上のためのタイ国民の英語使用能力向上戦略計画（2005年～2015年）」に示された英語教育の問題点

1. 政策
1. 1 政府およびすべての社会セクターが英語教育の重要性を認識し、国民の英語使用技能を開発しようとする明確な政策を打ち出したが、政策を実践につなげるための継続性に欠け、体系的支

<p>援が不足し、開発を十分に成功させることができなかった。</p> <p>1. 2 各教育段階の英語教育開発は明確な到達目標が定められておらず、学習者の能力レベルが明確に設定されていない。</p>
<p>2. カリキュラム</p>
<p>2. 1 基礎教育カリキュラムにおける外国語学習グループの内容は国際的で内容を網羅しているが、以下の問題点がある。</p> <p>1) カリキュラムの水準が広すぎ、明確ではなく、実践的な指標が示されていない。</p> <p>2) 教育機関のほとんどが、外国語学習内容グループの教育機関カリキュラム作成に問題を抱える。</p> <p>3) 教育機関が作成したカリキュラムは十分な柔軟性がなく、学習者を能力に応じて教育できない。</p> <p>4) 教育機関のほとんどは準備が整っておらず、カリキュラムを効率的な実践につなげられない。</p> <p>2. 2 さまざまな職業の人材および特定のターゲットグループのための英語使用技能開発カリキュラムが十分ではない、国家の競争能力を向上させるような重要な職業グループを網羅していない。</p>
<p>3. 学習教授</p>
<p>3. 1 英語教育は4つの技能を統合できていない。十分な実戦訓練がされていない。ほとんどは文法の勉強を強調している。学習者はコミュニケーションのための英語を使用できない。</p> <p>3. 2 学習教授方法は多様性に欠け、生徒の基礎にあっていない。</p> <p>3. 3 一学級当たりの児童生徒数が多すぎ、学習者に応じた練習を十分に実施できず、監督が行き届かない。</p> <p>3. 4 教員は、学習者に英語教育に対する重要性やよい態度を身につけさせる教授法を持っていない。</p> <p>3. 5 各教育段階の教育に継続性がなく、積み重ねがない。</p> <p>3. 6 英語を自主学習し、技能を伸ばすことのできる英語自己学習センター（Self Access Learning Center）の数がまだ不足している。</p> <p>3. 7 英語教育や英語使用訓練にふさわしい雰囲気欠けている。</p>
<p>4. 教科書および教材</p>
<p>4. 1 現在では教育機関や教員は、学術局の審査に合格した多様な教科書を選択できるようになったが、多くの教育機関は、予算不足のため、英語教材の購入または開発に限界がある。</p> <p>4. 2 質の高い外国の教材は値段も高い上、内容がタイの文化や社会の文脈にあっていない。</p> <p>4. 3 国内で作成された教材や教員が自分で作成した教材のほとんどは水準に達していない。言語学的な基礎を身につけさせる上で不十分であり、継続性がない。</p> <p>4. 4 タイ教育省の教科書は値段が安い、印刷が少なく学校に届く時期が遅い。</p>
<p>5. 評価</p>
<p>5. 1 評価は言語学的な知識を測るものがほとんどで、言語使用技能や4つの技能を網羅したものとなっていない。</p> <p>5. 2 教室では教員のほとんどが、4つの英語使用能力を多様な方法で評価することができていない。</p> <p>5. 3 国家共通テストや大学入学試験は一部の技能について測定しているものの、カリキュラムに即しているとはいえない。</p>
<p>6. 教員</p>
<p>6. 1 初等教育段階の英語の教員の80%以上は英語学主専攻ではなく、さまざまな学習グループを教授しなければならない負担を抱えている。教育以外の仕事も多い。</p> <p>6. 2 教員のほとんどは言語学的な技能、特にコミュニケーションや教授技能が不十分で、英語教育に対する積極的な態度に欠けている。</p> <p>6. 3 基礎教育委員会事務局の英語教員自己能力評価の結果、51.91%の教員は自分の英語能力が改善すべきレベルにあると認識している。教員が、教育機関カリキュラムを開発し、その上でレッスンプランや教材を作成し、定められた通りに学習教授できるという期待は現実とかけ離れている。</p> <p>6. 4 英語教員のほとんどは教科書に基づいて学習教授を行っている。安易に実施可能な狭い領域の活動を選んでいる。</p>

6. 5	教員に対する継続的かつ体系的な開発支援が欠けている。
6. 6	教育機関で教えている外国人教員の一部は資格、学習教授能力、および個人の行動の面で問題がある。
6. 7	教員の能力評価および開発は、公務員教員評価および他の動機付けにつながらない。
7. 行政	
7. 1	英語教育の改善に対し、継続的かつ体系的なフルサイクルで学習教授を開発できるような長期的な戦略計画を持っていない。
7. 2	国会のタイにおける外国語（英語）教育カリキュラムの水準および推進状況についての研究小委員会の研究の結果によると、行政組織および管轄部局が複雑で、決定および指示するのに時間がかかりすぎ、適切な調整とコミュニケーションに欠けている。
7. 3	政策レベルの管理者が頻繁に入れ替わるため、政策を実践につなぐ継続性を持ち得ない。
7. 4	教育機関の管理者（校長）のほとんどは、英語教育および英語教員研修を支援するビジョンを持っていない。
7. 5	英語教員の知識、能力、学習教授について、追跡、評価、質の点検の機会が少なく、体系的でなく、継続性もない。
7. 6	一部の現行規則は英語教育を奨励していない（例えば、外国人教員の雇用規制や私立学校法の教員採用規定など）。
7. 7	すべての段階の英語教育が、同じ目標をもって体系的に実施できるよう監督すべき中央組織が存在しない。

出所： http://www.moe.go.th/web_studyenglish/about.htm, visited on October 2, 2005

参考文献・関連ホームページ

（日本語）

- ・鈴木康郎・森下稔・カンピラパーブ スネート（2004）「タイにおける基礎教育改革の理念とその展開」『比較教育学研究』第30号、148～167頁。
- ・タイ教育省（森下稔・鈴木康郎・カンピラパーブ スネート訳）（2004）『タイ 仏暦2544（2001）年基礎教育カリキュラム』。
- ・堀内孜（2005）「タイの教員養成」日本教育大学協会編著『世界の教員養成 I - アジア編』学文社、88～111頁。

（タイ語）

- ・ラチャパット地域総合大学スワンサンター校（2004）『教育学士課程カリキュラム』(Suan Sunandha Rajabhat University, “Laksut Kurusart Bandit”)
- ・タイ教育省（2002）『2001 年基礎教育カリキュラム』(Krasuang Suksathikaan, “Laksut Kaansuksaa Khanphunthaan Phuttasakkarat 2544”)
- ・タイ教育省（2005）“Projects: Play & Learn Student’s Book 1-6”
- ・タイ教育省基礎教育委員会事務局学術・教育水準課（2004）『2001 年基礎教育カリキュラム実施に関する運営ガイドライン』(Krasuang Suksathikaan, “Naew Patibat Kiawkab Kaanchai Laksut Kaansuksaa Khanphunthaan Phuttasakkarat 2544”)

- ・タイ教育省学術局（1997）『1996年英語カリキュラム』（Krom Wichakaan, Krasuang Suksathikaan, “Laksut Phasaa Angkrid Phuttasakkarat 2539”）
- ・タイ教育省学術局（2003）『2001年基礎教育カリキュラムに基づく外国語学習内容グループにおける学習内容の提供』（Krom Wichakaan, Krasuang Suksathikaan, “Kaanchad Sarakaanrianruu Klumsarakaanrianruu Phasaathangpratheed Taam Laksut Kaansuksaa Khanphunthaan Phuttasakkarat 2544”）
- ・La-iad Juthanun (n.d.) 『2521年前期中等教育カリキュラムおよび2524年後期中等教育カリキュラム（2533年改訂）に基づく2539年英語カリキュラムにおける英語科目の学習教授提供ガイドライン』 Bangkok: Institute of Academic Development.(Naewkaanchad Kaanriankaansorn Wicha Phasaa Anggrid Taam Laksut Phasaa Anggrid Phuttasakkarat 2539 Nai Laksut Matthayomsuksaa Tornton Pho So 2521 Laksut Matthayomsuksaa Tornplai Pho So 2524 (Chabab Prabprung Pho So 2533))

（英語）

- ・Cathy Lawday (2003) “Get Set Go! Pupil’s Book 1.” Oxford University Press.
- ・Julie Ashworth and John Clark (2004) “I-Spy Course Book 1.” Oxford University Press.
- ・R. Nakata, K. Frazier, B. Hoskins, and S. Wilkinson (2000) “Let’s Go Student Book 1.” Second Edition. Oxford University Press.

（ホームページ）

- ・<http://inno.obec.go.th/> （タイ教育省基礎教育委員会事務局教育イノベーション課）
- ・<http://academic.obec.go.th/> （タイ教育省基礎教育委員会事務局学術・教育水準課）

註

- (1) 英語に加え、各教育段階において他の外国語も追加選択学習できるとされている。初等教育から前期中等教育段階では、英語に加えもう一つの言語を追加学習でき、後期中等教育段階では、自由に追加学習できる。
- (2) 実際には、国定教科書、検定教科書のほかに、検定を受けていない教科書が多くの学校で使用されてきた状況があり、これらは社会問題ともなってきた。タイ教育省より国定教科書または検定教科書を正しく使用するよう通達が出されることもあった。
- (3) 旧教員養成専門学校は、1995年の「ラチャパット・インスティテュート法」により名称がラチャパット・インスティテュートに改称され、2003年の教育行政機関改編統合によってラチャパット・ユニバーシティーと名称を変え、現在に至っている。